

岡山県真庭市の取り組み紹介 在宅医療・介護連携の取り組み

○真庭市の状況

真庭市は、人口46,854人、高齢化率:36.7%(29年4月現在)で、岡山県の北中部に位置しています。

○取り組みの概要

- ・真庭市医師会を中心に独自の取組みを構築しています。
- ・県在宅医療・介護連携推進拠点事業は未活用でありながら、「認知症かかりつけ医部会」を発足し、在宅医療と介護の連携体制を築き上げました

【認知症かかりつけ医部会】

- ・2007(平成19)年、高齢者へのアンケート調査を実施しました。アンケート調査により「寝たきり」や、「認知症」になることへ非常に強い不安があることが分かりました。
- ・同年、真庭市医師会で「認知症かかりつけ医部会」を立ち上げました。”認知症を切り口として地域の健康度アップを図ろう”と認知症地域ケアネットワークの構築を提案し、多職種、ボランティアに参加を呼びかけました。



○実施状況(主なもの):オール真庭で

・「医師・多職種懇談会」

現在では14職種の参加により「医師・多職種懇談会」に発展し、“顔の見える関係”ができています(年2回開催、約160名の参加)。

医師、ケアマネの連携ツールとして、「真庭共通シート」の作成や、歯科医師会の協力のもと、「口腔ケアチェックシート」を作成しました。

・「真庭共通シート」

病院の入退院時、施設の入退所時の情報交換にも使用され、利用者を中心とした情報交換のための日記帳としても利用されています。

[シートを活用している専門職の感想]

医師→「外来だけでは把握できない患者の生活の場の情報が得られ、内服状況が把握でき処方を考えるのに役立つ」、「家族からの情報提供も可能で認知症が意見書に適切に反映できる」

ケアマネ→「同じ様式で情報を管理でき経過、変化を把握できる」、「簡単に利用でき情報を迅速に伝えることができる」、「医師と接触する機会が増え、医師との垣根が低くなった」

・「医療講話:寺子屋」(介護職の資質向上)

介護職が、医療の知識不足や医療について相談ができず夜勤等に強い不安を感じている状況であったことから、2~3か月ごとに「医療講話:寺子屋」を実施しています。

医療知識の向上だけでなく、医師、介護職双方の熱意が感じられ、相互理解が生まれました。

・ボランティア

真庭市の認知症キャラバンメイトは368名で、認知症サポーターの養成(10,094名)、カフェの設立、傾聴活動、高齢者見守り、認知症セミナー開催などの活動を民生委員、愛育委員、社会福祉協議会、行政などの垣根を越え、地域コーディネーターとして活動している。

※キャラバンメイト数、サポーター養成数はいずれも平成29年3月末現在の数